

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2990500072		
法人名	社会福祉法人うねび会		
事業所名	ぼれぼれケアセンター白檀		
所在地	奈良県橿原市北越智町322		
自己評価作成日	令和 1年5月5日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action=kouhyou_detail_006_kan=true&JigyosyoCd=2970501694-00&ServiceCd=150&Type=
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット		
所在地	奈良県奈良市高天町48番地6 森田ビル5階		
訪問調査日	令和 1年6月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ぼれぼれケアセンター白檀」の周りには緑が多く、大きな窓からはうねび山が一望でき、又、隣には新沢千塚古墳 群もあり自然に恵まれている。庭には農園もあり野菜、花作りで季節を感じながらご利用者様一人一人に楽しく過ごしていただいている。各居室にはトイレ、洗面台、ワードローブ、枕頭台、ベッドが備え付けでありプライバシーに配慮されている。個別ケアで一人一人の残存能力を生かし役割をもって生き生きとした生活を送れるよう支援している。日常生活の中で庭園への散歩、ドライブ等を動かし、四季を感じられる行事等楽しく過ごして頂ける様取り組んでいる。施設長は指導者研修 介護職員は、認知症サポーター養成講座等の専門性の高い研修や接遇マナー教育を受けレベルの高い職員育成を実施している。困難事例や看取りまで積極的に受け入れている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

社会福祉法人としての事業所はハード面もソフト面も正にワンランク上のサービスを目指して研鑽を積んでおり、法人の掲げる理念も職員全体に浸透し、利用者をも心地よく包み込んでいくように感じられる。事業所には介護相談員やボランティアなどの活発な訪問があり、高齢者総合福祉施設のメリットを十分に生かして1階の地域交流スペースや隣接の農園などを開放し、地域に開かれた施設であろうとしている。毎年行なう家族へのアンケートで家族の要望や希望を把握しホームページにも公表し、家族への月次報告を行なうなど家族との関係を密にしている。業務記録などはパソコンで管理し、両ユニットの利用者の情報を職員全員が把握し理解できるよう共有を図っている。日常的に感染症予防への意識を高く持ち、今年はインフルエンザ等の感染症は皆無であった。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	採用時研修、キャリアアップ研修、又、朝のミーティング時に唱和し理念を共有し合っている 事業者やユニットの見えやすい場所に掲示もしている 年間の目標も理念を意識した取り組みを行い、実践している	法人の思い入れ深い「尽道楽生」という理念を掲げる。管理者、職員は「ゆっくり、楽しく、一緒に」とわかりやすい言葉に置き換え共有し、日々利用者に寄り添っている。毎年、各ユニットごとに理念を基本にケア目標を立て評価している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事、イベントに参加したり 以前に住んでおられた集会に参加したりといった取り組みを行っている。又、地域のボランティアの方が来られご利用者様と関わっていただいている	1階の交流スペースで利用者とボランティアがふれあい習字やお花教室を開き、ドッグセラピーの訪問もある。近隣小学校に作品展示をしてもらったり、運動会を見に行くなど交流を図っている。事業所が催す夏祭りや農園の収穫時に住民や家族も参加して利用者と共に楽しんでいる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学会 相談を随時行っている 地域の方、ご家族様に認知症サポーター 養成講座の開催案内をしている		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議を開催。家族 地域、行政、民生委員、第三者委員等近隣の方々に参加を呼び掛けている。会議では サービスの状況 その他報告を行い、皆様の意見交換を行いサービスの向上に活かしている	運営推進会議は、市担当課職員、民生委員、介護相談員、第三者委員、利用者とその家族等が参加して特養密着型と合同で2ヶ月に1回開催している。運営状況や職員移動についての報告や質疑等意見交換を行なっている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	報告・相談・質問等 市町村担当者と連絡を取り質の向上に繋げている 市から介護相談員の訪問を受け入れ、ご利用者様の意見、希望を取り上げ、伝えてもらい市と協力関係を導いている	運営推進会議の開催が土曜日であっても市担当者が参加してくれたり、制度の改正の説明を受けたり、運営規定などの問い合わせ、利用状況や事故報告など市担当課とは密な連携を図っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止等の適正化の為の指針を作成し、定期的な研修、採用時研修で学んでいる。日々の介護の中、カンファレンスでも身体拘束の例について話し合い些細な事でも身体拘束にあたらぬか考え、全体としても身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてマニュアルを作成しており、基本的に年2回の研修を行い、日常的にも身体拘束動機は事故対応と表裏一体であると認識して身体拘束をしないケアについて職員と話し合っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のマニュアルを作成し採用時研修で学んでいる。事故対策委員会を毎月行い、虐待について話しを行い、職員はキャリアアップ、社外研修にも参加し学んでいる。日々の中でも注意を払い虐待防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、職員は社外、社内研修に参加し学んでいる 家族から成年後見への相談があった際には話し合い、成年後見制度への協力をしている		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約の際は疑問点を聞きながら説明を行い、理解、納得して頂いてから契約書や重要事項説明書に署名、捺印をいただいている		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際には近況の報告を行い、意見、要望を聞いている。面会に来られない方には定期的に電話を行い、意見・要望を聞いている。2ヶ月に一度の運営推進会議でも意見や要望を聞き、又アンケートを行い、ホームページへの掲載し運営に反映させている	家族から減薬の相談や利用者が久しぶりの一時帰宅する時の家族の不安相談に職員が同行し対応するなど家族の要望などを運営に活かしている。また、年1回家族アンケートを行い、要望や意見を知り、回答や結果をホームページに掲載するとともにサービスに反映させている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員と面談を行ったり、月に一度カンファレンスを行いその時に職員の意見や提案を聞いている。又その意見は業務改善会議、事業所会議、部門別会議等で職員の意見や提案を発表し業務改善に反映させている	ユニットごとに月1回利用者情報のカンファレンスと共に職員会議を開き管理者、リーダーと職員が意見や提案を話し合い、業務中に気付く事についても適宜話し合っている。今回の外部評価はリーダー2名が自己評価作成に関わった。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスのモデルを使用したり、評価が高い職員には施設から賞賛が行われ、また職員の休日や労働時間の希望を聞きながら勤務をしてもらっている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修・新入研修として必須、採用時、キャリアアップ研修の年間スケジュールを立て実施。又キャリアアップに参加できなかった職員はフォロー研修を行う事で全職員が研修を受けれる様にしている。段階に応じて社外研修に参加を行い職員への研修を行っている 面接を行い年間目標を一緒に決め日々研さんしている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎年度、橿原市の第3者委員会への参加や外部研修において、他施設と交流を図っており、勉強会なども行う事もある。またひまわりの会と連携を行い、活動の報告を行う等し、サービスの質の向上を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の生活に寄り添う事に努め、困っている事や不安がある際には傾聴を行っている。又その事を記録に残し職員同士で共有し、カンファレンスの際に話し合い、その方に合ったサービスを提供する		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には家族様の不安や要望を傾聴し、アセスメント作成しながらサービスを提供し、本人、家族、職員でより良い関係が作れるよう努めている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談があった際、本人と家族の立場に立って他のサービス利用を含めた支援方法の検討を行いながら対応している		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活においてしっかりとコミュニケーションを図り思いを共感しながら、自立支援とし家事等役割分担を担っていただき共に助け合う関係を築くよう支援している		
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来ていただき環境作りをし、家族様に日頃の様子や状態を伝え、又家族様より以前の様子や協力をいただき関係を築きながら共に支えている		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	文化祭や夏祭りなど地域の行事への参加や、地域の高校での演奏会への参加を行っており、希望があれば今まで参加していた活動に参加してもらっている	近隣スーパーへ買い物に行ったり、地域の夏祭りや文化祭に参加したり、家族と墓参りや自宅へ行く方や友人の面会もあり、馴染みの関係を続ける支援を行っている。「井戸端会議」の集まりへ去年まで参加していた方がいた。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニット毎の交流やレクリエーションなどで関わりを持って頂き職員の声掛け、関わりで利用者同士がより良い関係をつくる様努める		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ入居・入院されても、フォローを行い、相談に応じて、支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、本人の希望、意向の把握に努め、出来る限りご本人の要望に応え、一人一人自分らしい暮らしをして頂けるよう支援している	利用開始時にセンター方式のアセスメント活用で利用者の思いや価値感等家族からの情報も含めて把握し共有している。近くの和菓子店へ出かけた方、家族へ電話したい方など写真と共にパソコン入力により利用者の思い、希望を継続記録している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生き方を尊重し、生活歴や暮らし方を前提に心地よく過ごしていただける様生活リズムや環境を整える。又家族様と話す機会をよく持つ事により更に、昔の生活を把握していくことを努めている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の生活や有する力などを理解し、ご本人のペースで過ごしてもらい、出来る事は行ってもらえるように努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画担当者、家族、看護師によりカンファレンスを行い方針を話し合う。それに伴い介護計画を作成し日常に反映する 毎月職員同士でもカンファレンスを行い話し合い、モニタリングを行い計画作成を行っている	月1回の利用者情報を職員、看護師、ケアマネジャーが話し合い、介護計画作成やモニタリングを行い、介護計画更新時や急な変化が見られた時はサービス担当者会議でプラン作成を行う。家族参加もある。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果など個人別に記録し、スタッフが申送りを行い、職員間で情報を共有している		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況により、他サービスの利用も行き、希望により、既存サービス以外のサービスを行い支援をしている。看護師、デイサービスと併設しているので状況により柔軟に対応して連携を図る		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣へ散歩、ドライブに行き暮らしを楽しんで頂き、又近隣のスーパーなど利用者と共に買い物に行ったり、公民館や高校・小学校まで出掛けたりといった形で地域資源を活用している		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望により利用者ごとのかかりつけ医を決定し連携を図っている 家族による受診の場合も日々の介護記録を家族様に預けるなどして支援している	事業所の協力医が月2回の訪問診療を行っており、医師は週1回の訪問があり、医療相談が出来る。歯科医の往診で口腔ケアを受ける方もある。家族付き添いで従来からのかかりつけ病院で受診する方もいる。看護師とは24時間常に相談でき体制をとっている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と連携し、24時間連絡体制をとれるようにしており、些細な体調変化でも相談できる体制を取り安心して生活が送れるように努めている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーを作成し、提供を行い、入院中には職員が病院へ行き状況の把握に努めている 又病院関係とも連携を取り、退院時の留意点、医師も含めてカンファレンスを行ったり、実際のケアの方法の引き継ぎを受けたりしている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の希望や医師の判断によりターミナルの対応を行っている 又、入居時から終末期の過ごし方について家族に意向を確認し、重度化した場合や終末期には家族とかかりつけ医とカンファレンスを重ね、方針を行っている	利用開始時に本人と家族から重度化した場合の要望などを聴き「意向確認書」を作成している。本人が重度化したときには医師が家族に説明し、改めて家族の意向を十分に聴き確認し、家族や医師、看護師、職員が話し合い看取りの体制をとっている。ターミナルケアマニュアルを作成している。昨年は老衰による看取りケアを行った事例がある。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	「事故対応」マニュアルを作成し、緊急時の対応に備えている、また採用時研修、キャリアアップ研修でも急変時の対応を学んでいる 緊急連絡先一覧も作成している		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害地策については2ヶ月に一度避難訓練を行い全職員が安全に避難できる方法を身につける様に努めている 地域の防災訓練にも参加したり直接地域の消防団の方に来て頂き訓練の指導を受け、協力体制づくりに努めている	2ヶ月に1回災害避難訓練を行っており、前回は安全衛生委員の計画により夜間想定訓練を行った。毎年避難訓練に地域の消防団の協力がある。訓練の結果として4階の居室からの避難は外部滑り台を使用するより、ベランダへの避難が安全で有効と分った。消防署への通報から7～8分で救助体制を得ることができる。栄養士の管理で3日分の飲料水、乾パン等の備蓄がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の人格を尊重し、人生の先輩として向き合い、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をするよう職員一同努めている	居室の内側から施錠できプライバシーを確保できている。利用者との会話で否定や批判の言葉は安易に使わないようにしている。トイレでの排便確認等は必要な方のみに行っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	それぞれの利用者様に合わせて声掛けを行いコミュニケーションを図り、その際のふとした表情や心情をくみ取って自己決定ができるよう働きかけている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご家庭でされていた一日の生活、又その時の気分、状態に応じて一人一人のペースを大切に希望に沿って支援している		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際には自分で服を選んでいただいたり、ご自身でお化粧をされたりし、楽しくおしゃれが出来る様支援している 専門の方に来ていただき、化粧セラピーも行っている		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月給食委員会を開催し、ご利用者様の希望に沿った食事を提供出来る様、厨房と連携を図っている お味噌汁を作ったり準備や片付け等も楽しく会話をしながら一緒に行なっている	食事の主菜は1階の厨房で調理しており、各ユニットで職員がみそ汁やご飯を手作りしている。食後は利用者が後片付けや食器洗いなど会話をしながら手伝っている。毎月給食委員会に利用者2名位が参加して希望を言うことができる。中庭で焼き肉など行事食を楽しむこともある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士と連携を取り栄養バランス、食事形態を考えている日常記録に食事量、水分量を記入し誰でも把握できるようにし、支援している		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後職員による声掛けや誘導で口腔ケアを行っており又、本人様、家族様希望により歯科定期往診時、専門的口腔ケアを行っている方もいる口腔ケアの研修も行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様の排泄パターンを把握し、トイレの声掛けや誘導を行っている 失敗の少ない方は布パンツへと移行している	一人ひとりの排泄パターンを把握し、適宜にさりげなくトイレ誘導を行い自然排泄を支援しており、ユニットの9名中4名が布パンツに移行した事例がある。オムツ着用の方は今はいない。夜間に職員が声掛けしてトイレへ誘導する方もいる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便一覧表を用意し毎日排便記録を行い職員が一目で状態を把握出来る様になっている 毎日体操を行い、運動をする事で便秘の予防に努めている		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望やタイミングに合わせて、入浴していただける様心掛けている。又、入浴前にはバイタルチェック、状態観察を行い健康状態を把握し快適に入浴していただける様支援している	主に午後からの入浴で週2回以上入浴することができるが、体調に合わせて午前になつたりすることもある。入浴を嫌がる方はタイミングを図り、同性介助で上手くいく事もある。入浴用昇降機も設置しており、重度化の方も対応出来る。入浴剤で楽しむ事もある。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝に起き、夜に寝るという生活リズムを作れるよう日中には外気浴、散歩等で日に当たり活動的な時間を過ごして頂き夜には安眠できるよう工夫し、又、家族様に相談しながら枕、毛布、電気アンカ等馴染みのあるものを使用していただき安心して眠れるよう支援している		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者ごとにファイルを作り、薬についていつでも確認できるようにしている。薬の量がかわったり、何か変化のある時には 申し送り、法連想ノートで職員全員に周知し、状態の記録をつけ変化が分かるようにしている		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中でご家庭でされてきていた事、役割、洗濯物干し、たたみ、食事準備、お味噌汁づくり、片付け、おやつ準備等を自然として頂き張り合いや喜びのある生活を送って頂けるよう工夫している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望により外気浴、散歩 定期的にドライブに出かけており行きたい場所などご利用者様の要望をお聞きしながら行先を決めている。地域の方、ボランティアの方にも参加して頂いている。また 家族様と外出、旅行なども楽しんでいただけるよう支援している	ベランダに出て外気浴を楽しむ方、中庭に祀ったお地蔵さんにお参りに行く方、畑の様子を見に行く方など敷地内の外出を日常的に行っている。車で花見や月1回の買い物などに出かけている。	事業所は4階建ての最上階にあり、ゆったりしたフロアからの眺望もよく、季節の移ろいを居ながら楽しめるが、気軽に地面を歩行する外出支援の取り組みを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様の希望に応じお金を所持したり使えるよう支援しているが、実際家族様希望により所持されていない人が多い 買い物の希望があれば、同行、又は代行し、施設立替にて対応している		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様や知人との電話や手紙でのやりとりやつぎを行い、支援や促しを行っている		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは南向きで明るく、木の質感を生かした落ち着いた居心地の良い空間となっている。廊下の奥にはアルコーブを設け眺望や採光の工夫をしている	広くゆったりとした廊下につづく、明るい居間で寛く利用者をキッチンカウンターをはさんで職員が見守り、気軽に会話をすることができる。大相撲の番付け表などがさりげなく貼られている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはゆったりとしたテーブル席の他、くつろぎやすいソファ、対面キッチンのカウンターや庭に椅子やベンチを設け好きな場所で一人、又気の合う方と自由に過ごして頂ける工夫をしている		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はゆったりとした空間で、プライバシーにも配慮し可動式扉付きトイレ、洗面台を設置し内側から施錠可能にしている。また、家族様と相談しながら、思い出、馴染のある品々で安心できる心地の良い空間となるよう工夫している	居室には洗面台、トイレ。整理タンスが据付られている。トイレは両方向から開閉できる機能的な扉になっている。テレビを持ち込む方や家族写真や絵を飾り、居室入口の飾り棚に小物を置くなど個性的な部屋づくりがなされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は全面バリアフリーで、床にはクッション性の高い素材を使用し安全性を高め、又、玄関、トイレ、浴室、廊下に手すりを設置、浴室にはリフトを設置し、滑りにくい床材を使用し安全面に配慮し一人で出来ることはして頂ける工夫をしている		